

令和2年度(2020年度)

管理事業名	スポーツ施設事業			総合計画の体系	大綱 7 都市魅力 政策 2 文化・スポーツに親しめるまちづくり 施策 3 地域におけるスポーツの振興
主な歳出 予算科目	一般会計	(款) 2	総務費	(項) 1	総務管理費 (目) 35 市民体育館費
部局名	都市魅力部	予算執行所属	文化スポーツ推進室		
予算大事業名	スポーツ施設事業				
スポーツ施設事業	上記以外の歳出予算科目及び予算大事業名 (款)総務費 (項)総務管理費 (目)スポーツ推進費、(目)体育施設管理費、(目)市民プール費、(目)武道館費、(目)総合運動場費 スポーツ施設事業 (款)災害復旧費 (項)総務施設災害復旧費 (目)総務管理施設災害復旧費 スポーツ施設事業				
事業の目的と概要	市民体育館5館(片山、北千里、山田、南吹田、目黒)、スポーツグラウンド5か所(中の島、桃山台、山田、南正雀、高野台)、市民プール2館(片山、北千里)、武道館及び総合運動場について、指定管理者制度を導入し、管理・運営を行うとともに安全な施設の整備に努め、健全なスポーツ活動の場を提供します。 また、市の遊休地2か所(青山台、藤白台)と府からの借用している2か所(新御堂、春日)は、土地の用途が決定され返還するまでの間、暫定的に地域の住民にスポーツ・レクリエーションの場として提供します。				

I 事業の成果(実績)

指標名	単位	平成30年度	令和元年度	令和2年度	成果指標の定義
施設利用者数(全スポーツ施設)	人	1,020,865	957,851	658,206	市民体育館、スポーツグラウンド、市民プール、武道館、総合運動場の利用者数
施設利用者数(市民体育館)	人	536,251	507,744	294,672	市民体育館の利用者数
施設利用者数(グラウンド)	人	233,625	198,608	176,105	スポーツグラウンドの利用者数
施設利用者数(プール)	人	68,320	107,364	56,588	市民プールの利用者数
施設利用者数(武道館)	人	55,410	85,521	42,005	武道館の利用者数
施設利用者数(総合運動場)	人	127,259	58,614	88,836	総合運動場の利用者数
施設使用料収入額	千円	100,836	105,384	95,166	市民体育館、スポーツグラウンド、市民プール、武道館、総合運動場の使用料収入決算額
説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度中に複数回緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が発出され、その都度全スポーツ施設の休館(場)、施設利用可能時間の短縮、施設利用人数の制限等の感染防止措置を講じたため、施設利用者数が減少しました。				

II 財務情報

◆行政コスト計算書 (単位:千円)

勘定科目	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
地方税	-	-	-	-
分担金及び負担金	-	-	-	-
使用料及び手数料	-	105,308	95,246	△10,062
経常収入				
国庫支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
府支出金(経常費用充当)	-	-	-	-
財産収入	-	-	-	-
寄附金	-	-	-	-
他会計からの繰入金	-	-	-	-
受取利息及び配当金	-	-	-	-
その他	-	183,481	29,148	△154,333
経常収入 小計(a)	-	288,789	124,394	△164,395
経常費用				
給与関係費	-	47,607	23,291	△24,316
物件費	-	929,510	928,483	△1,027
維持補修費	-	388,241	117,126	△271,116
社会保障扶助費	-	-	-	-
負担金・補助金・交付金等	-	7	145	138
特別会計への繰出金	-	-	-	-
減価償却費	-	409,602	435,040	25,439
徴収不能引当金繰入額	-	-	-	-
賞与引当金繰入額	-	4,084	1,972	△2,112
退職手当引当金繰入額	-	12,549	△19,914	△32,463
支払利息	-	231	1,550	1,319
その他	-	0	-	△0
経常費用 小計(b)	-	1,791,832	1,487,693	△304,139
経常収支差額(a)-(b)=(c)	-	△1,503,043	△1,363,299	139,744
特別収入				
固定資産売却益	-	-	-	-
その他	-	982	1,311	329
特別収入 小計(d)	-	982	1,311	329
特別支出				
固定資産除売却損	-	0	-	△0
その他	-	-	-	-
特別支出 小計(e)	-	0	-	△0
特別収支差額(d)-(e)=(f)	-	982	1,311	329
一般財源調整額(g)	-	-	-	-
当期収支差額(c)+(f)+(g)	-	△1,502,061	△1,361,988	140,073
一般財源充当額	-	1,116,130	1,014,310	△101,820
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
再計	-	△385,931	△347,678	38,253

行政コスト計算書の主な増減理由(特徴的な事項)

勘定科目	決算額の主な内容
経常収入 その他	使用料収入 95,246千円(10,062千円の減) その他 スポーツ振興くじ144,400千円の減、行政財産目的外使用料 23,279千円(756千円の減)、主催事業参加費ほか 5,869千円(9,177千円の減)
経常費用 物件費	指定管理委託料 864,324千円(11,218千円の減) 備品購入費 30,580千円(3,175千円の増)
維持補修費	施設修繕費等 117,126千円(271,116千円の減) 内訳 市民体育館 111,940千円、 スポーツグラウンド 1,542千円、市民プール 1,386千円、武道館 827千円、総合運動場 1,431千円

◆キャッシュ・フロー収支差額集計表 (単位:千円)

区分	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差額 B-A
行政サービス活動収入	-	288,866	124,314	△164,552
行政サービス活動支出	-	1,372,723	1,076,485	△296,237
行政サービス活動収支差額	-	△1,083,857	△952,171	131,686
投資活動収入	-	982	22,747	21,765
投資活動支出	-	547,547	299,482	△248,066
投資活動収支差額	-	△546,565	△276,734	269,831
財務活動収入	-	532,700	231,100	△301,600
財務活動支出	-	18,407	16,504	△1,903
財務活動収支差額	-	514,293	214,596	△299,697
収支差額 合計	-	△1,116,130	△1,014,310	101,820
一般財源充当額	-	1,116,130	1,014,310	△101,820
一般会計からの繰入金	-	-	-	-
一般会計への繰出金	-	-	-	-
前年度からの繰越金	-	-	-	-

キャッシュ・フロー収支差額集計表の特徴的な事項

決算額の 主な内容	(行政サービス活動支出) 指定管理者委託料 864,324千円、施設維持補修費 10,605千円 (投資活動支出) 吹田市立北千里市民体育館第1・第2体育室等復旧工事(建築工事) 134,827千円
--------------	--

◆単位あたりのコスト分析(「経常費用 小計(b)」を「実績」で割って円単位で算出しています。)

指標名	年度	実績	単位あたりコスト	分析内容(前年度との増減理由)
利用者1人あたりのコスト	平成30年度	人	円	経常費用は前年度よりも減少していますが、新型コロナウイルス感染症の影響により施設の閉館等の措置を講じたため、施設利用者数が大幅に減少したことから、市民体育館5館、スポーツグラウンド5か所、市民プール2館、武道館、総合運動場の合計で、利用者1人あたりのコストが前年度より増加しています。
	令和元年度	957,851 人	1,871 円	
	令和2年度	658,206 人	2,260 円	
閉館1日あたりのコスト	平成30年度	日	円	新型コロナウイルス感染症の影響により施設の閉館措置を講じたため、施設の閉館日数が減少していますが、経常経費も減少しているため、市民体育館5館、スポーツグラウンド5か所、市民プール2館、武道館、総合運動場の合計で、閉館1日あたりのコストが前年度より減少しています。
	令和元年度	延べ4,347 日	412,200 円	
	令和2年度	延べ3,907 日	380,776 円	

◆貸借対照表

(単位:千円)

勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A	勘定科目	令和元年度末 A	令和2年度末 B	差額 B-A
現金預金	-	-	-	流動負債	20,589	58,943	38,354
未収金	1	81	80	地方債	13,200	53,767	40,567
流動資産	-	-	-	短期借入金	-	-	-
財政調整基金	-	-	-	賞与引当金	4,084	1,972	△2,112
短期貸付金	-	-	-	未払金	-	-	-
徴収不能引当金	-	-	-	リース債務	3,304	3,204	△100
その他流動資産	-	-	-	その他流動負債	-	-	-
固定資産	-	-	-	固定負債	682,967	835,376	152,409
事業用資産	-	-	-	地方債	638,300	815,633	177,333
有形固定資産	25,178,381	25,049,292	△129,089	長期借入金	-	-	-
土地	16,803,988	16,803,988	-	退職手当引当金	40,061	18,341	△21,720
建物・工作物	8,366,484	8,225,012	△141,471	リース債務	4,606	1,401	△3,204
リース資産	7,910	4,606	△3,304	その他固定負債	-	-	-
建設仮勘定	-	15,687	15,687	負債の部合計	703,555	894,319	190,763
無形固定資産	-	-	-	純資産	24,778,919	24,452,677	△326,242
重要物品	304,092	297,622	△6,470	純資産の部合計	24,778,919	24,452,677	△326,242
図書館資料	-	-	-	資産及び純資産の部合計	25,482,475	25,346,996	△135,479
図書館資料	-	-	-				
投資その他の資産	-	-	-				
出資金	-	-	-				
長期貸付金	-	-	-				
基金	-	-	-				
徴収不能引当金	-	-	-				
その他債権	-	-	-				
資産の部合計	25,482,475	25,346,996	△135,479				

Ⅲ 財務構造分析

▽人にかかるコストの内訳

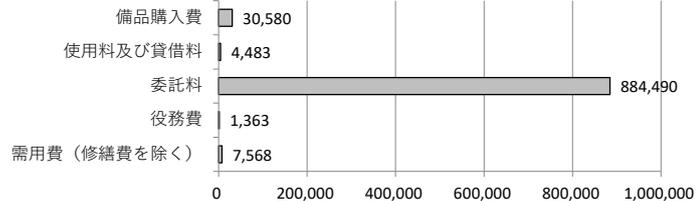
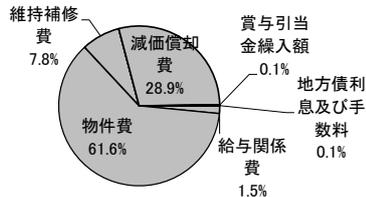
	常勤・再任用 月平均	会計年度任用等 年間従事延日数	特別職非常勤 年間従事延日数	合計(千円)
事業従事人数	3.09 人		21 日	5,349
給与関係費等	5,173 千円		176 千円	
内、時間外勤務手当	942 千円			

貸借対照表の主な増減理由(特微的な事項)

勘定科目	増減理由
建築・工作物	スポーツ施設の減価償却による425,266千円の減 北千里・山田・南吹田市民体育館の改修工事・設備更新による建物・工作物の取得価格283,795千円の増
リース資産	スポーツ施設情報システム 業務・街頭端末機の減価償却により3,304千円の減
重要物品	重要物品減価償却により6,470千円の減

▽経常費用の構成割合

物件費の内訳(単位:千円)



▽施設の概況

施設の名称	片山市民プールほか13施設
取得年月日	昭和37年(1962年)8月2日(供用開始)ほか
建物・工作物の取得価額	19,142,477 千円
建物・工作物の減価償却累計額	10,917,465 千円
利用料金収入	95,246 千円

▽分析指標

(単位:%)

分析指標	年度	平成30年度	令和元年度 A	令和2年度 B	差 B-A
施設維持補修費比率		-	2.1	0.6	△ 1.5
施設老朽化比率		-	55.6	57.0	1.4
受益者負担比率		-	5.9	6.4	0.5
徴収不能引当率		-	-	-	-
一般財源充当比率		-	57.6	72.8	15.2
経常費用対公共資産比率		-	9.5	7.8	△ 1.7

【参考:市保有施設全体の老朽化比率は57.2%】

Ⅳ 総括

▽分析結果の説明

施設老朽化比率はスポーツ施設全体で57.0%です。コスト全体の61.6%を物件費が占め、そのうちの約93.1%を指定管理委託料(864,324千円)が占めています。また、減価償却費がコスト全体の約28.9%を占めています。なお、令和元年度に総合計画体系に沿って事業の再編を行ったため、平成30年度の数字は表示していません。

▽分析結果を踏まえた事業の課題

市民体育館は平成25年度から、スポーツグラウンドは平成20年度から、市民プールは平成18年度から、武道館及び総合運動場は平成23年度から指定管理者制度を導入しています。各施設とも、利用者会議や市民アンケートなどを通して市民ニーズを把握し、情報共有に努めながら指定管理者(民間)のノウハウを活かした自主事業等を実施して、効果的、効率的な利用を図っています。令和2年度は、平成30年度に自然災害により使用中止となっている北千里市民体育館第1・第2体育館及び山田市民体育館第1体育室の復旧工事を実施し、また各施設においては修繕や経年劣化による維持補修工事を実施しました。全てのスポーツ施設について、今後も効率的、有効的な活用ができるようハード面・ソフト面の両面から検討していく必要があります。施設の老朽化に伴い、維持補修の実施だけでは施設の維持が難しくなっていることから、機器の更新をはじめ、今後のスポーツ施設のあり方や改修方針等の検討を計画的に進めていくことが課題です。